



# 季節を楽しむ 春の本山



**もとやま花まつり**  
毎年4月〜5月、しゃくなげや桜が開花する時期に合わせ、帰全山公園内で開催されている恒例イベントで、週末には地元商店や商工会女性部が出店を行っている。帰全山公園内はしゃくなげの名所として広く知られており、町内の方のみならず県外からの観光客も多く、毎年約7000人がこの時期に訪れる。

**上街公園**  
言わずと知れた町内有数の桜の名所で、毎年3月下旬〜5月上旬までライトアップを行っている。照らし出された園内の桜は昼のやわらかさとは違い、非常に幻想的な雰囲気を出し、春の夜空に映える桜

**若宮公園**  
商店街南東にある公園で、上街公園と並ぶ桜の名所。ビュースポットもあり、休日には家族連れや観光で訪れる方も多く、満開に咲き乱れる桜と本山町の街中を同時に眺めることができる。



**「ば」**  
万物に感謝し、自然と人との調和によって恵みが生まれる

**「う」**  
美しい山間の町からみんなの笑顔がこぼれるように

**「む」**  
無限の可能性に挑戦する

**事業方針**

地域のなかにあるまた十分活用されていない資源を活用することで、地域の中に雇用と所得を生み出し、持続可能な地域再生の実現を目指します。

また、地域に残る豊かな自然環境を活用し、地域内外の人たちに安らぎを提供したいと思えます。

**行動の原点**  
変化に期待するのではなく、己の力で未来を拓く

## 季刊誌ばうむ

ばうむ-llc

春号の紙面

季節を楽しむ、春の本山  
租製「ロウリン」(かいつり)  
れいほく地域人ネット「福田修」さん  
商品紹介ページ

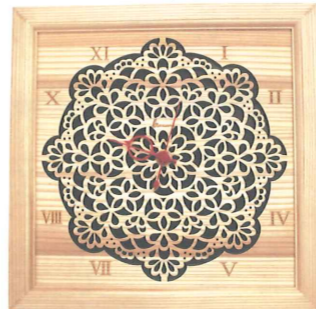
発行所  
地域の総合会社  
ばうむ合同会社  
TEL 0887-76-3355  
FAX 0887-76-3365  
〒781-3609  
高知県長岡郡  
本山町助藤1372  
(志那川リビング協同組合内)  
http://www.baum-llc.com



新生活に  
新しい時間を。

もくレースが壁掛け時計となって登場。時間を知るほかに眺めてみたくなる。そんな時計を高知県産材の杉で作りしました。

moku-lace wall clock (L)



本体価格 ¥15,000  
(木箱付き ¥18,000)  
サイズ 245×245  
ムーブメント 電波時計

moku-lace wall clock (M)



本体価格 ¥6,800  
(木箱付き ¥9,800)  
サイズ 155×155  
ムーブメント クォーツ  
電子時計



moku-lace(L)  
木箱付きの写真

※moku-lace wallclock は受注生産です。お問い合わせ下さい。また、Lサイズは時計の針の形が異なる場合があります。

お問い合わせは  
ばうむ合同会社 TEL0887-76-3355  
FAX0887-76-3365  
MAIL info@baum-llc.com



# 田舎いんぷお 瀧山一揆岩屋

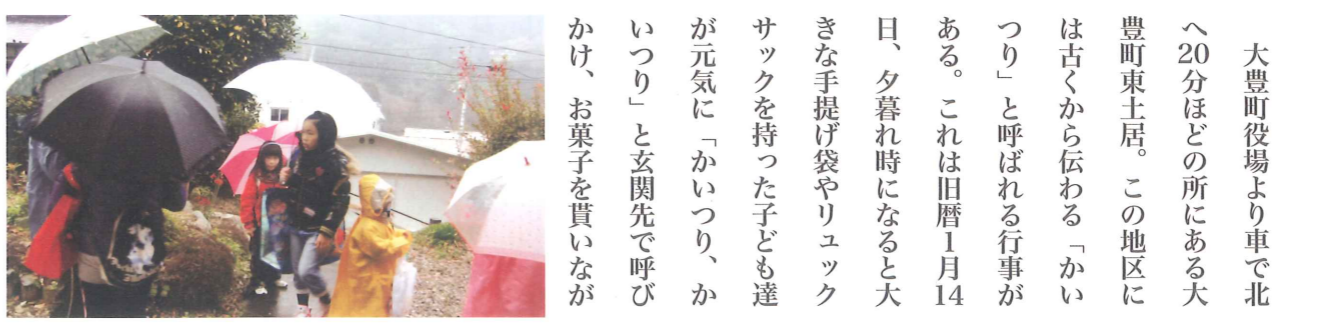


瀧山一揆岩屋は本山町中心街より北東へ車で30分、徒歩にて山道を登ること45分ほどの所にある岩屋で、江戸時代初期、本山町北岸に住む農民や長宗我部家遺臣が中心となり一揆を起こした際、立てこもった場所である。現在途中まで道が整備されており、入口近くまで行けるようになったも

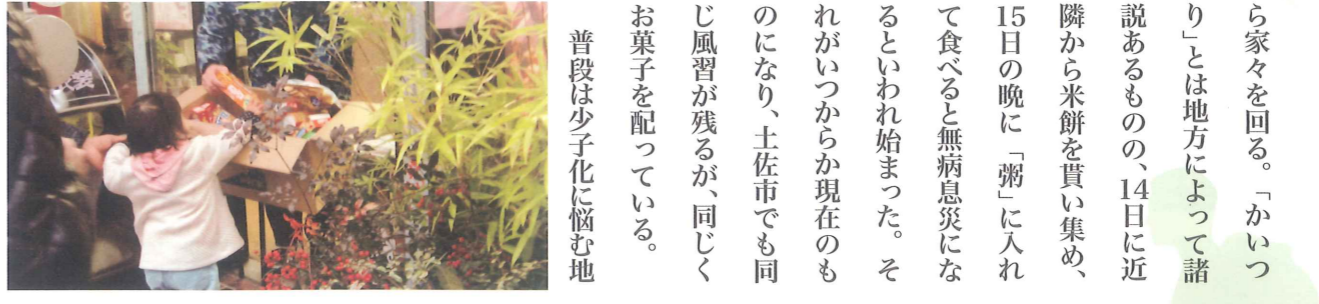
の、下車してからの登山道は険しく、岩屋まで行くのは容易ではない。いくつかの難所を越え、岩屋にたどり着くとまず迫力のある反りたつ壁が目に入る。岩壁の下部には農民達が立てこもったくぼみ部分が今も残っており、いかに厳しい環境で戦い、散っていったかが分かる。岩屋から250mほど登ると丁度岩屋の真上に上がる事ができ、その場所からの眺望は格別で、南側の山々から、大豊町ゆとりすとパークの風車まで一望

できる。さらに奥へ進むと瀧山一揆首謀者である高石左馬助の妻・カワの墓や、弟・吉之助の墓がある。400年余りたつた今では場所や物語を知る方は少なくなりつつも、一領具足が最後に武力抵抗した場所として登山客は今なお後を絶たない。

# 和製ハロウィン「かいつり」



大豊町役場より車で北へ20分ほどの所にある大豊町東土居。この地区には古くから伝わる「かいつり」と呼ばれる行事がある。これは旧暦1月14日、夕暮れ時になると大きな手提げ袋やリュックを手に持った子ども達が元気に「かいつり、かいつり」と玄関先で呼びかけ、お菓子を貰いなが

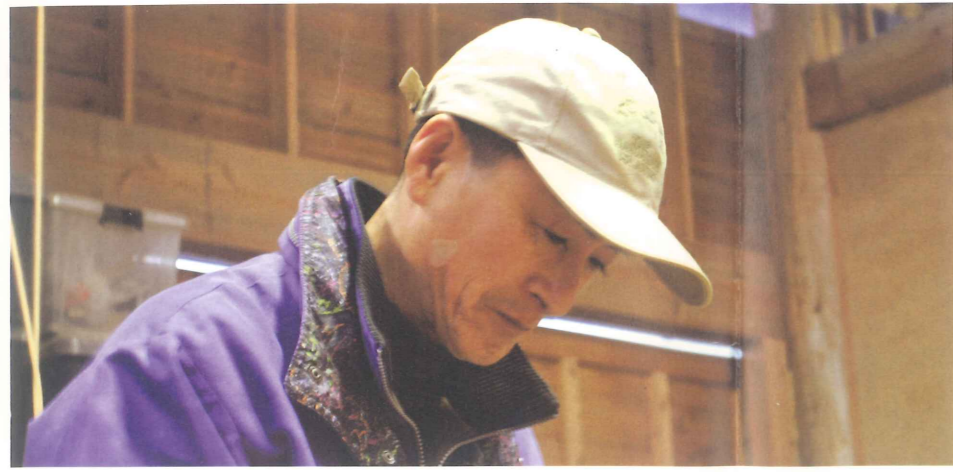


ら家々を回る。「かいつり」とは地方によって諸説あるものの、14日に近隣から米餅を貰い集めて食べるという無病息災になるといわれ始まった。それがいつからか現在のものになり、土佐市でも同じ風習が残るが、同じくお菓子を配っている。普段は少子化に悩む地

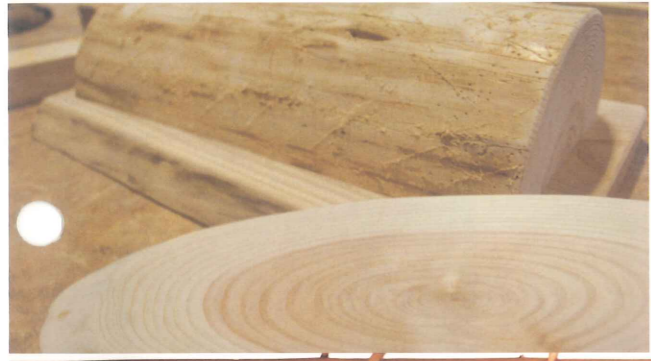
区ではあるが、この日だけは地区外の子どもや離れて暮らす孫たちも参加する。それを迎える地域の大人達も久々に子ども達に合えるあつて、楽しい様子である。地元の方は「この行事が毎年楽しみで仕方が無い」と言う声も多く、地域にはこの風習がなくてはならない存在になっている。

## れいほく 地域人ネット

### 和田修一さん



(記事編集 ばうむ合同会社 澤田)



土佐町田井の中心地にある木工所「さめうらこむ」。広々とした敷地には無数の切り株が置かれ、商店や病院などがある中でその一郭は違った雰囲気醸し出している。そこを経営するのは土佐町で「月の友 嶺北支店」を営む和田修一さん。和田さんは昭和31年土佐町で生まれる。25年前

家業を継ぐため会社勤めをしていた京都より帰郷。以前から趣味で木工を行っていたが、その時から「切り株」に魅力を感じる。本来切り株は市場に出回ることが少なく、そのまま山に置き去りにされているのが現状で、その切り株を加工することなく自然のまま商品に出来ないかと考えた。研究を重ね、5年前現在地に木工所「さめうらこむ」を設立する。商品となる切り株や丸太は地元の林業家から仕入れ、水圧機で皮を剥がす。そして充分自然乾燥させ、依頼者の希望に合わせて商品を製作する。できた商品は綺麗な木目で、丸太にすると必ず入って



しまう「割れ」が一切なく、伐採したまま本来の美しさを保っている。商品はオーダーメイドで、スライスしただけのものや、ディスプレイスタンド、パソコンデスク



から松のハンガーラックなど、主にインターネット受注している。商品を作る際、「できるだけ加工せず、木そのままでお客さんに「自然」を知ってもらおう」ことに徹底しており、人工的で量産される商品が多い中、まさに「本物のみ」を生み出す職人である。